

令和7年度 社会福祉法人吉祥会 寒川ホーム 介護老人福祉施設・短期入所生活介護
事業計画書・事業報告書

作成者
管理者：高野将樹

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。			令和6年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）※前期比
方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。			①稼働 → 介老▲0.4%・訪介▲13.5%・短期+1.9%・通所+5.2%・居宅±0 / 収入 → 600万円増
				②人件費 → 3,800万円増 / 年間勤務時間数 14%増（16,900時間） / 常勤換算数 60 → 68名
				③前年度同様、キャリアアップを目指すスタッフ数の増減なし → 研修受講率 17.5%/介護福祉士数 横ばい
				④受託事業等25件 外部連携強化により、利用申込やスタッフ応募数が伸びた。応募数 23名→39名
				⑤新事業関連→スタッフ福利厚生・採用強化目的の事業立案、R7年度着工に向け準備を進めることができた
	令和5年度（実績）	令和6年度（見込）	令和7年度（目標）	令和6年度 事業所の振り返り（評価）
事業収入（円）	279,159,042	286,000,000	287,970,000	①空床を埋める期間と入院期間の長期化のため稼働率としては例年通り91.5%に留まってしまった。
稼働状況	91.7%	91.3%	94.0%	②常勤換算19.1⇒21.4と人員は多いがサービス内容、業務内容に変化がなく新しい取り組みもなかった。
人件費率	57.4%	65.7%	67.5%	③新しく資格取得を目指すスタッフはいたが偏りがあり、現状維持のままを希望するスタッフの割合の方が多いのが現状。
利益率	4.4%	-4.0%	-4.1%	④受託事業12件：介護大会2件・研修2件・授業1件・ロボ6件・職場体験1件 ※但し参加職員に偏りがある
人時生産性（円）※全体	161	-150	-	⑤その他として個別機能訓練加算取得・技能実習（海外からの来日）5名の受け入れ

法人目標	/	組織・事業所の生産性向上を進める ～ 当たり前(常態化)の見直しと革新的な取り組みからの増益・削減 ～
事業所目標	/	①退所後、最低1週間以内の入所を行い稼働率を改善する ②業務、経費、時間の削減を実現する
目標数値	/	①稼働率94%以上（定員規模別 神奈川県の平均稼働率93.1%） ②エリア・委員会で計6つ以上の業務・経費・時間の削減（例：業務内容や時間の見直し・水道光熱費の節約・日用品の節約等）

月計画		評価 ※感想ではない
4月 ②責任者間で実質、実行可能な計画書作成 ②エリア会議、3大委員会で会議開催し実施計画書の作成		②サービス委員会にて事業計画の実施計画について共有、削減の実施をエリアごとと各委員会ごとに決めることとした。 ただし具体的な実施計画までは至らなかった。
5月～ ①空床から入所までの間で、時間を要する原因の抽出を行い改善計画を作り実行する 8月 ②計画に対しての進捗の確認と評価		①サービス種別によって入所までにかかる期間の把握ができた。特に入所施設からの入所は時間がかかることが分かった。 ②エリアによって削減する内容は異なるが、計画を立案し実行できた。
9月 ①上半期評価と後期に向けて評価 ②各会議、委員会にて上半期評価 ・後期に向けての新たな立案または継続が必要かの妥当性判断		①短期との合算の稼働率は90%前半であったために（平均で）稼働率改善に向けて評価はできる、後期も維持することができれば目標値達成に届く。 ②水の使用量や無駄な物品購入の見直し等を行い削減達成。後期も取り組みを継続する。
上半期評価	①5月～6月にかけて原因不明（感染症ではない）の風邪が流行し入院者が増えたが、短期の受入れ（空床利用）を強化したことで前期の稼働率の平均値は90%台を維持できた。後期も取り組みを継続する。 ②業務の見直しや無駄な書類を廃止できたこと、エリアごとに事業計画に沿って実行できたことについて一定の評価は出来る。中途半端で終わらず継続していくことが重要な為、後期も注視していく。	
10月 ①入所期間を短くするために必要書類の準備を次点者時点で作成依頼していく ②業務見直し、経費見直しを行い後期実施計画を検討（時間外削減は全エリア対象）		①サービスにより書類の作成期間に差があることから、老健有料施設にいる申込者には早めの声掛けをすることで以前より若干改善できた。 ②フレックス消化もあり、時間外勤務時間の削減は出来たが申請の内容について精査が必要となった。
11月～ ①退所の可能性のある利用者を見極め次点者の書類準備を進めていく（直ぐに入所できる準備） 2月 ②計画に対しての進捗の確認と評価、改善の実行		①必要書類の作成を早めに家族に進めることで、在宅施設からの入所は以前よりスムーズに行えた。 ②前期で計画した内容は後期も継続して行えている。ただ取り組み内容が、やや同様となってしまった。
3月 ①②後期評価		①後期は約88～92%であった。3月に7名の退所があったが、短期の受入れ増もあり大幅な稼働率ダウンにはならなかった。 ②おしぼりや入浴方法の変更等で光熱費や物品の支出を削減できたが、突発的な人員関連の時間外勤務が発生してしまった。
実績・達成度 （目標との比較）	①稼働率は1年間で93.1%であった。目標である94%以上には届かなかった。 【達成度：98%】 ②業務見直しや光熱費の節約を行うこと削減できた。ただし年間を通して時間外勤務の削減は大きく減らすことができなかったため、来年度も取り組みを継続していく。【達成度：削減 各エリア1つ実施・達成】	

令和7年度 社会福祉法人吉祥会 寒川ホーム 通所介護 事業計画書・事業報告書

作成者
管理者 植田洋平

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。			令和6年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）※前期比
方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。			①稼働 → 介老▲0.4%・訪介▲13.5%・短期+1.9%・通所+5.2%・居宅±0 / 収入 → 600万円増
				②人件費 → 3,800万円増 / 年間勤務時間数 14%増（16,900時間） / 常勤換算数 60 → 68名
				③前年度同様、キャリアアップを目指すスタッフ数の増減なし → 研修受講率 17.5%/介護福祉士数 横ばい
				④受託事業等25件 外部連携強化により、利用申込やスタッフ応募数が伸びた。応募数 23名→39名
				⑤新事業関連→スタッフ福利厚生・採用強化目的の事業立案、R7年度着工に向け準備を進めることができた
	令和5年度（実績）	令和6年度（見込）	令和7年度（目標）	令和6年度 事業所の振り返り（評価）
事業収入（円）	82,791,896	86,000,000	86,000,000	①稼働率4.2%上昇。平均介護度の低下、要支援利用者の増もあり上昇値程、増収となっていない。
稼働状況	93.5%	98.7%	98.7%	②常勤換算8.9人。前年度と変化なし。人員配置より体制加算取得。人員をサービスへの還元不十分。
人件費率	57.4%	60.9%	58.6%	③新たに資格を取得したスタッフはいない。内・外研修への参加は一定数いるが有資格者のみ。
利益率	6.0%	-1.6%	1.0%	④介護ロボの実証を2件受託。
人時生産性（円）※全体	161	-150	-	⑤記録のデジタル化・動態の見直しから効率化推進。

法人目標	/	組織・事業所の生産性向上を進める ～ 当たり前(常態化)の見直しと革新的な取り組みからの増益・削減 ～
事業所目標	/	既存のデイサービスから脱皮する ～寒川ホームデイサービス固有のイメージを確立する～
目標数値	/	稼働率98%以上

月計画		評価 ※感想ではない
4月～ 業務負担のムラと業務のムダを洗い出し、一層の効率化を図る。 令和7年度版の動態が完成している。 6月 ①個別面談と事業所会議を行い洗い出す。 ②研修を実施し必要なスキルUPを図り、業務負担のムラを無くす。		業務の担当を明確にした。
4月～ 寒川ホームデイサービスのイメージを探る。ケアマネ事業所へアンケートを実施。 5月		アンケートは実施せず。代わりにケアマネより依頼があった際に「なぜ寒川ホームを選んだか？」を確認し1年間集計を開始。また、見学から利用を選ばれた利用者・家族の選んだ理由も同様。
7月～ 寒川ホームデイ特有のサービスを検討し実施する 9月 Instagram以外の広報方法を実行する。		YouTubeでレクの様子を見れるQRコードを配布したが、再生は2回と反響なし。
上半期評価	6か月間の相談・依頼の傾向から、「臨機応変」「認知症の方もうまく対応してくれる」「ショート併設」のイメージがケアマネより強い事が確認できた。また、見学者からは「明るい」「雰囲気がい」「レクが充実」の声を頂いており、ケアマネと利用者・ご家族の寒川ホームを選ぶ基準に違いがある事も確認できた。引き続き集計は継続。見学を増やすことが利用者を増やせることに繋がると考え下半期は、増やしていく。	
10月～ 空き情報・パンフレットを見直し、各居宅事業所へ配布する事で見学者を増やす 12月	依頼・見学は月に4件ほど受けており、新規利用も3件ほど獲得できている。 登録数を減らさないために現状の信頼や強みを継続していく。	
1月～ 年度末も近く月の利用人数を意識しながら、先月までの取組みの継続 2月	火曜日・金曜日の登録人数が1日の定員（39名）まで増やすことができています。 通常規模定員の限界まで近づいており、年度末に向け調整が必要。	
3月 ホーム携帯がスマホに変更となるため、効率化の取組みを検討する 年度評価・次年度の計画	スマホになった事から、各利用者の自宅地図や連絡先等、今まで紙ベース＆ホーム事業所でないと確認出来ない事が送迎 先でもアクセスできるようになり、緊急時等への対応力を上げる事ができた。	
実績・達成度 （目標との比較）	目標数値を達成できず（97.62%）。稼働率に関して前年度と同等であったが、平均介護度の上昇や要支援利用者の割合低下の影響で収入増であった。 寒川ホームデイのイメージは一つではなく強みも一つではない事が強みである事が分かる1年であった。	

令和7年度 社会福祉法人吉祥会 寒川ホーム 訪問介護 事業計画書・事業報告書

作成者
管理者 船山純子

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。			令和6年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）※前期比
方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。			①稼働 → 介老▲0.4%・訪介▲13.5%・短期+1.9%・通所+5.2%・居宅±0 / 収入 → 600万円増
				②人件費 → 3,800万円増 / 年間勤務時間数 14%増（16,900時間） / 常勤換算数 60 → 68名
				③前年度同様、キャリアアップを目指すスタッフ数の増減なし → 研修受講率 17.5%/介護福祉士数 横ばい
				④受託事業等25件 外部連携強化により、利用申込やスタッフ応募数が伸びた。応募数 23名→39名
	令和5年度（実績）			⑤新事業関連→スタッフ福利厚生・採用強化目的の事業立案、R7年度着工に向け準備を進めることができた
				令和6年度 事業所の振り返り（評価）
				①4～2月の事業収入平均は約158万円であるが、10～2月の下半期の平均は143万円と下がっている。
				②稼働時間は大幅に減っており(約780時間減・前年比約22%減) 登録ヘルパー退職1名はあったが、人件費率は増加している。
事業収入（円）	22,163,537	18,800,000	17,000,000	③介護福祉士数の退職者1名分マイナスはあるが、その他の変動はなし。（介護福祉士6名／7名）
稼働状況	5,108件	4,416件	3,972件	④受託事業(研修・授業・自治会・ロボ認証)は0件。
人件費率	75.7%	90.4%	98.9%	⑤新規が滞り、常での活動が著しく減っていることが稼働・収入減にも繋がっている。ケアマネへの営業は行っている。
利益率	14.4%	-2.7%	-11.1%	
人時生産性（円）※全体	161	-150	-	

法人目標	/	組織・事業所の生産性向上を進める ～ 当たり前(常態化)の見直しと革新的な取り組みからの増益・削減 ～
事業所目標	/	①一人ひとりの意識改革とチームワークの活発化により、増益を目指す【歓喜・革新】 ②ICTの活用・業務のスリム化を図ることで業務効率を上げる【革新・開花】
目標数値	/	①事業収入：年間1,800万円（月150万円）以上 ・ 月の新規ご利用者受け入れ：1名以上 ②ICTの活用可能業務への移行：1つ以上(記録類：引継・シフト・ケース記録・会議関連を中心に検討)

月計画		評価 ※感想ではない
4月～ ICT導入への調整（他事業所の方法確認・利用ツールの確認） 5月	法人内の他事業所の方法確認後、5月よりタイムテーブル・引継はLINEWORKSを活用し、移行することができた。	
6月～ 現利用者の訪問頻度・内容の見直し（増加の提案に繋がるか検討） 7月	該当ケースがあるか検討し、1件該当ケースがあったが入院・永眠されたため、提案・増加には繋がらず。増加の提案ケースより、必要性に疑問を感じるケースが複数件あった。	
8月～ お客様アンケートの実施 9月（満足度を可視化して下半期に生かせる改善策を見出す）	サービス追加の提案に繋がる可能性がある「現在実施のサービス以外に希望するサービスはあるか？」をいった内容を中心にアンケートを実施。	
上半期評価	①目標の150万円を達成となったのは7・8月の2か月のみで、月平均は約146万円であった。 ②計画に基づいて取り組むことができ「シフト」「引継」の2項目であるが、ICT化へ移行することができた。	
10月～ お客様アンケートの結果から活かせる改善策の検討 11月	アンケート集計上はヘルパーへの相談件数は少なかったが、実際は困りごとやサービス内容についての相談は受けている。ヘルパーでの対応外の内容で、寒川町のサポート寒川の利用に繋がっている事例もある。	
12月～ 緊急時対応の備えの強化 1月	緊急時（救急搬送）に備え、独居のご利用者の服薬内容の説明書を自宅の記録書と同じファイル内へ入れる取り組みの開始に繋がった。	
2月～ ヒヤリハット事例の抽出・検討の強化 3月	季節（冬季）に応じた内容も含めた事例を抽出・共有することで、同じような状況でどのような対策をとるべきか、より具体的な行動を考える機会となった。	
実績・達成度 （目標との比較）	①事業収入：約1,600万円（月平均約136万円）→ 未達成 ・ 月の新規ご利用者受け入れ：1名以上の達成は5／12ヶ月 → 未達成 ②ICTの活用可能業務への移行：2項目(引継・シフト)→ 達成	

令和7年度 社会福祉法人吉祥会 寒川ホーム 居宅介護支援事業所 事業計画書・事業報告書

作成者
管理者 木藤剛

理念	すべての人と地域に、介護を通じて3K（歓喜・革新・開花）を実現します。			令和6年度 法人の振り返り（評価・今後の課題）※前期比
方針	1. すべての人（スタッフ・お客様）が歓喜できる人生を目指します。 2. 革新する姿勢を忘れずに、常に成長することを目指します。 3. 地域のさらなる開花を目指します。			①稼働 → 介老▲0.4%・訪介▲13.5%・短期+1.9%・通所+5.2%・居宅±0 / 収入 → 600万円増
				②人件費 → 3,800万円増 / 年間勤務時間数 14%増（16,900時間） / 常勤換算数 60 → 68名
				③前年度同様、キャリアアップを目指すスタッフ数の増減なし → 研修受講率 17.5%/介護福祉士数 横ばい
				④受託事業等25件 外部連携強化により、利用申込やスタッフ応募数が伸びた。応募数 23名→39名
⑤新事業関連→スタッフ福利厚生・採用強化目的の事業立案、R7年度着工に向け準備を進めることができた				
	令和5年度（実績）	令和6年度（見込）	令和7年度（目標）	令和6年度 事業所の振り返り（評価）
事業収入（円）	20,218,107	18,580,000	21,800,000	①稼働状況としてはほぼ横ばいの状態が続いている。
稼働状況	1,470件	1,490件	1,746件	②3月に入職者1名(常勤)と特定事業所加算を取得しなかったことにより令和5年度より16.1%増加している。
人件費率	94.7%	110.8%	115.5%	③主任介護支援専門員取得の条件を満たす職員がいない。研修等積極的に参加していない状況である。
利益率	-4.9%	-20.0%	-22.2%	④地域の老人会との交流会を実施した。ケアマネ実習生2名を受け入れて1名入職となる。
人時生産性（円）※全体	161	-150	-	

法人目標	/	組織・事業所の生産性向上を進める ～ 当たり前(常態化)の見直しと革新的な取組みからの増益・削減 ～
事業所目標	/	①担当件数の増加 ②ケアマネ資格取得職員の増加
目標数値	/	①令和8年度実績10月時点で+22件、3月時点で+44件 ②ケアマネ合格者1名以上

月計画		評価 ※感想ではない
4月～ 初期担当ケースの移動(ダブル担当制の導入)についての周知	5月 ケアマネの仕事について施設内研修の実施	4月に新人職員が休職することになり担当ケースの移動・ダブル担当制への取り組みはできなかった 施設内研修の日程調整ができなくて6月に実施することになる
6月～ ケアブランダーター連携システム・特定事業所加算取得の検討	7月 ケアマネ受講生に向けての取り組み決定	6月10日に「ケアマネの魅力研修」参加職員5名を実施できた ケアブランダーター連携システム・特定事業所加算取得 に関しては次年度に持ち越すことに決定 ケアマネ受講生に向けての取り組みについて話し合うことができた
8月～ ケアマネ受講生に向けての取り組み実施	9月 初期担当ケースの移動(ダブル担当制の導入)についての見直し	研修後法人内に4名のケアマネ受験希望者を確認する 8月にケアマネ試験の模擬問題を作成して9月に実施することができた
上半期評価	①担当件数増加（前年比+22件）：4月に新人職員が離脱という状況になり達成することができなかった（前年比-2件） ②ケアマネ合格者1名以上：研修の実施・フォローについて検討・実施することはできた(テスト本番は10月・合格発表は12月)	
10月～ ケアマネ受験希望者へのフォロー	11月 担当件数増加への話し合い	テスト本番前の声掛けや質問等への対応を行いフォローすることができた 事業所会議にて話し合いを行うも大きな取り組みを決めることはできなかった
12月～ ケアマネ合格者の確認・フォロー		4名中1名が合格・3名の不合格者へのフォローを行うことができた
1月～ 来年度に向けての準備	3月 ケアブランダーターシステム・件数増加への取り組み	毎月の会議にて来年度に向けての話し合いを行う（ケアブランダーターシステム・リモートワーク等） 常勤1名のご家庭の事情で12月より積極的に新規受け入れができなくなり件数が大幅に減少した
実績・達成度 (目標との比較)	①担当件数増加（前年比+44件）は達成ならず：前年度比-23件 ②ケアマネ合格者1名以上達成：合格者1名	